



週報

2011～2012年度 国際ロータリーのテーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

No.0900 2011.9.12 第9例会

◆本日のプログラム

9月12日
月見夜間例会
(配偶者同伴)

◆理事・役員(2011.7～2012.6)

会 長	藤岡 温	会 計	岡本 和夫	理事・親睦活動	小松 忠男
副 会 長	花房 茂	理事・職業奉仕	丹治 康浩	理事・プログラム	相原 利行
幹 事	原 全伸	理事・社会奉仕	大饗 よし江	理事・ロータリー財団	岡村 秀男
副 幹 事	樋口 芳紀	理事・国際奉仕	原田 徹美	直 前 会 長	川西 熊雄
理事・S.A.A.	山田 喜広	理事・新世代奉仕	小松原 隆代	次 期 会 長	西山 隆三郎
副 S.A.A.	河田 肇	理事・会員増強	大賀 章弘		

◆次回のプログラム

9月26日
「未定」
あきた労務管理事務所
所長 穂田恒雄 氏



Reach Within to Embrace Humanity

岡山北西ロータリークラブ

国際ロータリー 第2690地区 第9グループ
事務所 〒700-0902 岡山市北区錦町1-8 岡山県木材会館4階
TEL(086)222-9590・222-0384 FAX(086)224-4288
E-mail:hokusei@6rc.jp

友好クラブ 京都朱雀ロータリークラブ
E-mail:suzakurc@mbox.kyoto-inet.or.jp

地区スローガン

「ロータリーは人をつくる」

クラブスローガン

「親睦の絆で高める奉仕の心」

●例会場

岡山市北区駅元町1-5
ホテルグランヴィア岡山

●例会日

毎週月曜日
12:30～13:30

前回9月5日の例会記録

出席の状況

会員数 50名(内出席免除 4名) 出席者数 39名 欠席者数 11名
出席率 81.25% 前々回訂正 93.75%
欠席者 藤岡, 藤原, 福元, 堀川, 入江, 鴨井, 川本, 南葉, 丹治, (平野), (中西(広))

S.A.A.



大饗会員

先日のゴルフコンペの写真を見て、小松さん、西岡さんの間に入れば少しスマートに見えるかと期待しておりましたが、それなりの太さにがっかりです。(今更どうでもいい事なのですが…?) キャリーオーバーの馬券当たりましたが、勘が冴えている人が多く、配当は少々がっかりでした。

○先週はイニシエーションスピーチさせて頂き、ありがとうございました。

○樋口会員、大饗会員、先週見積協力ありがとうございました。



花房会員

昨日倉吉で開催の会員増強・ロータリー財団合同セミナーに代理出席する予定でしたが、ドタキャン欠席申し訳ありません。台風12号の影響の為仕事をする羽目になりました。(お客様宅のガスボンベが、一部灌水した為でした。)



西岡会員

以上、3件 8,000円(累計 251,000円)

会長報告

会長 藤岡 温

平成23年9月4日開催の会員増強・ロータリー財団セミナーの会長報告

1 本会議(午前)(道明ガバナー補佐)

会員数18名の倉敷中央ロータリークラブのCLPを使っの工夫等について。

クラブ自治権で、クラブの実態にあった組織、運営をすればよい。例えば、例会日についても、世界的にみれば、土日のクラブも多い。

2 会員増強セミナー(午後)(RI研修リーダー中村靖治氏)

3年以内の退会を防ぐ方法

・なるべく早くロータリーを語る。・2年以内に委員長などの役についてもらう。・その役での実績を周りでサポートする。

田中RI会長エレクトのメッセージ 「できないことの理由を考えるよりも、できることの方策を考えよう。」

幹事報告

幹事 原 全 伸

・前年度、財団奨学生として当クラブより推薦していた横井和子さんですが、この度英国オックスフォード大学に合格され、新地区補助金奨学生として承認されました。なお、カウンセラーは西山会員にお願いをしております。

・インターアクトクラブの生徒表彰の件ですが、授業の関係で本日の例会出席は困難とのことで、学校で表彰状をお渡しすることになりました。

・本日レターボックスに優良従業員表彰依頼書を入れております。丹治職業奉仕委員長はお休みですが、10月3日のクラブフォーラム(職業奉仕)で例年通り職業奉仕表彰を行いますのでよろしくお願いします。

・昨日、倉吉未来中心にて開催された会員増強・R財団合同セミナーに出席してきました。後日、週報にてご報告いたします。

例会プログラム

クラブフォーラム(新世代奉仕)

新世代奉仕委員長 小松原 隆 代

本年度より新世代奉仕委員会が新しく設立されたことを期に当委員会の主旨に則って、ひとつのプロジェクトを立ち上げることへの承認を頂きたいと思う。従前のインターアクトへの協力は引き続き新倉委員長と協力体制を組みながら、これからの時代を担う若者の育成をするなか、なかなか目を向けられない障害の人たちの新規雇用について取り組みたい。

《主旨》

中四国で初めて開校した岡山県立瀬戸高等支援学校の生徒が、来春はじめて卒業する。3年生の就職を前に進路指導の先生方は、前提実習または実習のみを受け入れてくれる企業を求めて、一軒・一軒を丁寧に訪問している。しかし、その数は驚くほど増えることはなく、障害の中、頑張って技術や知識を身につけて来た生徒達の先行きは、あまり明るくない。(昨年度の岡山県他特別支援学校高等部 就職率・17.8%)そこで、私達の1企業が生徒を受け入れるという安易な考えではなく、学校・生徒と



協力して『どのようにすれば、これから卒業する多くの生徒が就職することが出来るか』考え、その円滑な流れが作れるプロジェクトを組むことを目標とする。仮称⇒特別高等支援学校の就労支援プロジェクト

《特別支援学校の児童・生徒数の推移》

年々増加を辿っている。

《特別支援高等学校が出来た経緯》

『特別なニーズ教育に関する世界会議』（ユネスコ会議・スペイン開催）

「障害のある子供を含むすべての子供は、教育を受ける基本的権利を持っており、その一人一人の特性・関心・能力及び教育ニーズを考慮した教育計画が立案され、実施されなければならない。」サラマンカ宣言これが採択され、わが国も支援の在り方について、文部科学省・中央教育審議会等で何度も討議され、平成19年から改正学校教育法が施行された。これにより、特別支援教育推進の法的な位置付けがなされた。当県も、それらの体制整備・改善・充実を図ることに取組んで来たが、近年、特別支援学校に在籍する児童生徒数は、特に知的障害特別支援学校において、増加が著しくその対応が考えられた。

《就労訓練の方法と就労したら》

軽い実習は、1年生から行われ、保護者・教員の挨拶・引率等によって、問題なく実習を終えて帰る。基本的に、実習企業への通勤方法は、実習生が就業時間までに、自分で会社に行く。3年生になると、6月と9月に3週間の実習訓練があり、その企業でマッチングすれば、10月に内定する。就業訓練での心配事として、保険の適用等は、心配することではなく、大きな保険に入っている。就職した後、障害の就労者に関する相談先が不安とされているが、学校やハローワークだけでなく、それらを支援する機関がきちんとあり、安心して、就労者を受け入れることが出来る。生徒は、1年生から実習があり、得意・不得意・適正・不適正も見極めて行く。

《実習依頼の訪問先等》

実習を受けられる先が少なく、企業を訪問して説明する以外に、学校をよく知って貰う方法として、企業訪問のように、学校訪問を各ロータリーに勧める。個人で、学校の喫茶店にお茶を飲みに行く。学校の説明に、同校から来てもらう等、色々な方法を考える。

《プロジェクトを創る!!》

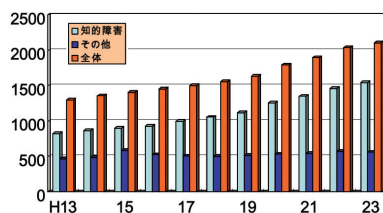
私たちは、しかけることが目的!! 実際に手をく다して、一人一人を自社で受け容れれば早いですが、それでは、毎年卒業する40人の就職を面倒見ることが出来ない。そこで、支援高校の将来を考えて、また、若い力に援助して助けて頂くことを考えて、就職が出来やすい仕組みを創る。

《社会奉仕委員会の援助》

このプロジェクトは、ひとつの委員会だけで扱うテーマとしては大きすぎるので、社会奉仕委員会にも援助して頂いて、色々な知恵を頂きながら、今年、まず足掛かりを創りたいと思う。

今、私達ロータリーが、このことで取組めることは、何か!? 年を重ねる私たちは、必ず就業能力のある若い力に、助けてもらう時が来る。その時、素直に『ありがとう』と言えるように、今、出来ることをしておこう!!

以上、プロジェクトの立ち上げにご協力をお願い致します。



クラブ情報

寄稿文

「劔岳登山記」 岡本 和夫 会員

劔岳は日本百名山の中でも、急峻、峻険な岩峰を誇り、登山者を寄せつけない最難関の山と言われている。深田久弥は、その著『日本百名山』の中で、「全く劔岳は太刀の鋭さと韌さを持っていて。その鋼鉄のような岩ぶすまは、激しい、峻しいせり上がりをもって、雪をよせつけない。」と表現している。また、映画『劔岳一点の記』で紹介されている通り、登頂には幾多の危険、苦労があり、歴史が秘められている。予備知識が増えれば増えるほど、危険回避からガイド同行の登山がベターかと思ひあぐねていた。お盆休暇を利用してついに劔岳の登山を決意した。

12日金の診療を終えた後、午後8時5分に妻と車で出発した。たいした渋滞もなく、順調に近江路、北陸道を走ったが、途中睡魔に襲われ、南条SAと小矢部SAで短時間の仮眠をとった。立山ICで北陸道を下り、立山駅周辺の駐車場に午前3時に入り、仮眠をとった。6時30分発のケーブルカーで出発。弥陀ヶ原のあたりで薬師岳は望めるものの、劔岳はガスに隠れて全容は見えなかった。ホテル立山に荷物を預け、8時5分に一路別山乗越をめざして出発した。ミクリガ池から地獄谷へ廻り、雷鳥平へ到着した。別山乗越へは、高度差が約500mあり、単調な登りを避け、新室堂乗越を迂回していくコースをとった。お花畑やハイマツ帯の中をゆっくり進んだ。ジグザグにさしかかったあたりで妻のカメラがないことに気づき、登山道を引き返した。幸い、少し戻ったところのハイマツの枝に引っかかっているところを見つけ安堵した。時折ガスが立ち込め、視界が悪くなったが、11時15分に別山乗越に到着した。



本日の宿泊地の剣山荘へのルートとして、劔岳が望めること、できるだけ雪渓の通過を避けること、劔沢小屋経由のコースをとった。カラフルなテント群を見ながらゆるやかに下っていき、劔沢小屋に到着した。ここでもガスに巻かれて劔岳は見えてこない。雪渓を三か所横切り、ハイマツ帯を抜けて剣山荘に到着した。午後1時15分であった。ザックを解き、翌日の軽装備の準備を済ませ、剣山荘周辺を散策しようということになり、黒ユリのコル方面へ向かった。劔御前から続く稜線に出たが、黒ユリの群生地はわからず、明日の登山路の下見を兼ね、そのまま稜線伝いに一服劔へ向かうことにした。手前のコルからは規模は小さいものの鎖のある岩稜を登り、2,518mの一服劔頂上に立った。眼前には今まで目にしたことのない帆のような岩稜がそそり立っており、感動のあまりしばしの間くぎづけになった。武蔵のコルからしばらくはガレ場であり、ジグザグを繰り返してしだいに登山道は岩稜帯の中、狭隘となって頂上に続く稜線へとつながっているのが、下山してくる登山者の動きから見てとれた。そうしているうちに、長次郎谷の雪渓からハツ峰を経由して頂上をさきめたという70歳前後の勇猛な一団が一服劔にやってきた。ザックは軽量ながら登攀装備はしっかりしており、リーダー以下体力気力ともに壮年の雰囲気があり、畏敬の念を抱いた。明日の好天気を期待し、かつ前劔より先の登攀路をイメージしながら、剣山荘に下りた。山荘は比較的新しく、シャワー、トイレの設備とも快適であった。翌日の天気を気にしながら眠りについた。

翌日は3時に起床、外に出てみると星空、月夜で、まずは幸運に感謝。欲は深まり、ご来光を拝むためできるだけ高い所へと行こうと、3時45分に山荘を出発した。一服劔に立つと、前方は前劔へ、後方は劔沢小屋方面から登ってくる登山者のヘッドライトがホテルの如く点々と動いている。武蔵のコルへ下り、登りにかかる頃しだいに白み始めたが、傾斜は益々きつくなり、鎖場の連続となった。慎重にクリアして稜線に出ると、西には早暁の富山平野と富山湾が海岸線でくっきりと隔てられ、みごとなコントラストを見せている。程なくして前劔(2,813m)頂上に到着した。5時30分であった。鹿島槍ヶ岳の方向から昇った朝日は既にやや高かった。小休憩を入れ、ここから展開する岩場のルートに再度気を引き締めた。いきなり鎖伝いに下り、小さな橋を渡り、節状紋理様の岩塊を鎖を頼りにトラバース気味に越えていった。そしてガレ場のゆるやかな登りを通り過ぎると三角形の平坦地に出た。ここまで来ると、劔岳の岩肌が近くに迫ってき、核心部分が近いことを認識した。鋭利な稜線の直下を進み、平蔵の頭に到達した。岩稜に挟まれた隙間から東方に秀麗な鹿島槍ヶ岳が望めた。平蔵の頭では、上りと下りが分かれたルートを鎖を頼りに三点保持の基本を忠実に守って越えていった。そこは平蔵のコルと呼ばれるガレ場で、少し先にはカニのたてばいと呼ばれる急傾斜の登攀路が待ち受けている。順番待ちを少しした後、いよいよたてばいに挑んだ。妻を先にやり、あとからその姿、登攀路の様子をカメラに収めることにした。鎖とアンカーボルトを頼りに慎重に登って行くが、しだいに垂直になり、冷静さを失わず最後の気力を振り絞って岩棚に上がった。そこから鎖を保持して横に移動し、たてばいは終わった。しかし、この先岩峰に挟まれた狭い空間を身を振るようにして越し、下りルートのカニのよこばいの取りつき点に達した。ここからはガレ場と岩稜を進んで、やっとの思いで劔岳(2,999m)頂上に立った。午前7時過ぎであった。頂上からは360度の視界が開け、遠くは富士山、白山、そして室堂平から辿ってきた経路が同定でき、苦労とともに達成感を妻とともに味わった。朝食の弁当を食べ、写真撮影と眺望を約1時間楽しんで下山を開始した。

下山路の難所は言うまでもなく、カニのよこばいである。多少の渋滞の後、いよいよ自分の番がやってきた。ガイド本では、上からは第一歩を置く足場が見えないという。鎖を頼りに三点保持を守って、右足から探りをいれると中ほどに狭い足がかりがあり、そこへ右足を置き、続いてゆっくりと降り、左足を狭い岩棚に着地した。もう少し脚が長ければ苦労も少なく済むのと思った。そこから鎖を両手に持って左方向に横移動していった。続いてくる妻をカメラに収め、急な鎖場を下って、今度はハシゴである。垂直に切り立った崖を約10m下り、再び鎖を頼りに朽ちた避難小屋まで下りた。そこは平蔵のコルで、カニのたてばいを待つ上りの登山者で混み合っていた。上りより難度の高い平蔵の頭の下りルートを慎重に越え、とりあえず注意を要す箇所をクリアし安堵した。あとは眺望と登山道を楽しみながら、前劔、一服劔へと下り、無事剣山荘に辿りついた。休息の後、預けておいたザックを引き取り、12時35分に出発。劔御前を巻くトラバース道を通して別山乗越に到着した。風が出てきて、時折小雨が混じり、振り返ると劔岳はガスで既に隠れており、天候に恵まれて登頂できたことに感謝した。室堂平へは、上りと同じルートを辿り、宿泊先のホテル立山に辿りついた。14時間近くにおよぶ歩行で、まさに疲労困憊した表情、足取りで自室に入り、早速入浴し、疲れを癒した。15日は浄土山の登頂を計画していたが、ゆっくり時間を過ごし、夕刻無事岡山に帰った。

再び深田久弥である。「どこから見ても断崖と岩壁に鎧われていて、どこから登り得るか見当のつけようさなかった劔岳も、現在ではあらゆるコースが採られ、若い勇敢なクライマーたちは困難な岩壁ルートを求めている。」とあるように、そそりたった岩峰に挑む多くのクライマーに出会った。そして、転落、落石など死と隣り合わせの登山は、この山に限っては本格的クライマーでなくとも、無縁ではない。改めて自分の年齢と技量を自覚し、苦労しながらも、ノーマルルートを完登した妻と自分を褒めた。

例会情報

本日のメニュー（9月12日） 夜間例会

次のメニュー（9月26日）

赤蕪の冷たいスープ ヨーグルト風味

瀬戸内鯛のポワレ タブナード添え 赤ピーマンとサフランの香り

ミックスグリーンサラダ シェフ特製デザート コーヒー ホテル特製パンとバター